



国際ロータリー第2790地区

千葉南ロータリークラブ週報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

創立	1964年3月2日	例会日	毎金曜日12時30分	例会場	オークラ千葉ホテル
会長	榊原 行夫	幹事	小林 透	雑誌会報委員長	瀬谷 研一
事務局	〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階			TEL	043-245-3204

2010年9月第1週号

第2281回



平成22年9月3日(金) 点鐘12:30 (晴れ)

- ◆国家斉唱 『君が代』
- ◆ロータリーソング 『奉仕の理想』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

- ◆お客様紹介
米山奨学生 / 閻 宏偉さん

会長挨拶及び報告 榊原 行夫会長

理事・役員会クラブ協議会報告

1. 創立50周年事業について
準備委員会で案を作成し、理事会で議決する方法とする。準備委員会の構成は、6名程度+年度会長とする。
2. 9/17「ガバナー公式訪問」について
11:10～12:10 ガバナーとの懇談 正副・会長幹事
12:30～13:30 例会
13:40～15:10 クラブ協議会
3. 9/24「ロータリー情報研究会」について
水野ガバナー補佐の主催で当クラブがホストとなっておりますので、大勢のご出席をお願いします。
4. 11/7「地区大会」について
20名が参加のため、バスで送迎する。費用はクラブより捻出。7時30分千葉駅NTT前出発。
5. 10/22「秋季日帰り親睦旅行及び職場訪問」について(委員会報告にて)
6. 11/26例会場の変更について
次回理事会までに検討して提案
7. クラブ運営資金会計報告

順調に推移している。

8. 理事の人数の変更について
9名から12名に変更、承認される。

米山功労者感謝状伝達

第8回米山功労者 太田 和夫会員

委員会報告

◇親睦委員会より (北原俊彦委員長)

◀グルメの会(第1回)開催のご案内▶



本場のインド料理をお楽しみ下さい!
(食べ放題! 飲み放題! お店貸切り!)

日程⇒ 平成22年10月1日(金) 18:00～20:00

場所⇒ インド料理 ルンビニ(中央区富士見)

会費⇒ 5,000円

◀秋季日帰り親睦旅行及び職場訪問▶



房総最南端に位置する

海上自衛隊の飛行場「館山航空基地」を訪問します。

日程⇒ 平成22年10月22日(金)

08:00千葉駅NTT前発～ 08:15蘇我駅千葉銀行前発

10:00館山航空基地資料館見学～ 10:30ヘリコプター見学

11:00管制塔見学～12:00隊員さん達と一緒にカレーライスを喫食

13:10安房神社参拝・野島崎灯台・ローズマリー公園・潮騒市場～

17:00千葉到着

“大勢の皆様のご参加をお待ちしております”

ニコニコボックス報告

☆植松 省自会員

山口 浩会員、本日の卓話、宜しくお願い申し上げます。

☆北原 俊彦会員

8月21日から30日までの10日間、箱根から富士、そして、新潟港から小樽港へ北海道を一週しました。雨にも出会うこともなく、快調にツーリングを楽しみました。走行距離は、4,100kmでした。

本日のニコニコボックス	4,000円	累計	230,000円
金の箱	2,030円	累計	8,495円

9月度会員誕生日祝・結婚記念日祝

《誕生祝い》

1日 榊原 行夫会員 11日 鈴木美津江会員
25日 太田 和夫会員 29日 瀬谷 研一会員

《結婚記念日祝い》

28日 斎藤 昌雄会員

It's your Birthday.



出席報告 (会員数40名)

出席者数32	欠席者数8	ビジター 1	修正出席率 87.18%
--------	-------	--------	--------------

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい](#)

千葉RC	月	日	会場
千葉RC	月	9/27	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	9/28	センシティタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	9/28	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	—	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水	—	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	9/30	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	9/16	京成ホテルミラマーレ

★ 本日の卓話 ★



演題…『異常気象』

卓話者… 山口 浩会員

暑い日が梅雨明けから続いておりましたが、9月1日に、気象庁から今年は異常気象ということがプレス発表されました。そのプレスの内容を、気象庁のデータや文献に加え私の考察も含めながらご紹介したいと思います。

これは気象衛星ひまわりが撮った赤外線画像です。渦を巻いた雲が見えますがこれは熱帯低気圧です。少し東側の黒いところは、雲が無く晴れているところで、丁度日本列島はこの中に入っています。

【プレスの概要】

今夏(6月～8月)の日本の平均気温は、平年差+1.64℃となっています。気象庁では過去30年の平均を出して、それとの差を平年差と言いますが、今年は過去30年の平均より1.64℃高かったと言うことになります。

この記録は、統計を開始した1898年(明治31年)以降の113年間で第1位の高い記録となりました。各月の月平均気温の平年差は、6月が+1.24℃で第5位、7月が+1.42℃で第11位、8月が+2.25℃とダントツに高温

となりまして全体で第1位ということになりました。

記録的な高温になった要因は、

1. 冷涼なオホーツク海高気圧や寒気の影響を受けなかったこと。
2. 上空の偏西風が日本付近で平年より北に偏って流れ、勢力の強い太平洋高気圧に覆われたこと。
3. 今春まで継続していたエルニーニョ現象の影響で、北半球中緯度の対流圏全体で気温が上昇したこと。
4. 背景には地球温暖化の影響となります。

ここで上の三つについて、絵を交えながらお話してみようと思います。

1. オホーツク海高気圧

オホーツク海高気圧は、北海道の北東のオホーツク海にできる寒冷で湿った高気圧です。これと小笠原諸島付近の太平洋にできる温暖な太平洋高気圧(小笠原高気圧)とで梅雨前線を形成します。梅雨前線は、オホーツク海高気圧と太平洋高気圧の勢力が釣りあうためにおきる現象です。両方の高気圧から吹き出す風が日本列島付近で衝突し、衝突した風は行き場を失って上昇気流となります。この境界を前線といいます。この上昇気流によって雲が発生し雨が降ります。

その後、高温・多湿な太平洋高気圧が勢力を増して、梅雨前線をグググッと北に押し上げていって夏になるというのが梅雨から夏にかけての仕組みです。

ちなみに、降水現象の仕組みは次のとおりです。

水蒸気をたくさん含んだ空気が熱せられて上昇し、上空で冷やされて雲ができます。上昇する空気の塊は、上空ほど気圧が低いので膨張し、熱を受け取らずに膨張するので冷えます。これを断熱膨張と言いますが、気温が下がるので水蒸気が水滴となって雲ができます。さらに上昇して気温がさがると、水滴は氷晶となります。

雲は落ちてきませんが、実際氷晶は落ちてきています。しかし、雲粒は、直径が0.01ミリメートル程度と小さいため、上昇気流のある雲の中ではなかなか落下しません。もし、落下しても、地表に到着する前に途中の乾いた空気の中で蒸発してしまいます。水滴の粒が一定以上の大きさになると、落下速度が大きくなり、途中で蒸発せずに地表に届くようになります。これが雨です。その大きさは直径1ミリメートル以上です。

オホーツク海高気圧からの風は北から吹くために涼しく、オホーツク海高気圧の勢力が強いと、梅雨が長く続いたり、冷夏になる傾向にあります。今夏は、太平洋高気圧の勢力が強かったため暑かったものと思われます。

2. 偏西風

地球規模の大気の循環で、中緯度付近で地球を一周している西風を偏西風と言います。

偏西風は、500hPa高度(地上から5,000～5,500mくらいの高さ)あたりを流れています。通常なら日本列島にかかるあたりを流れているのですが、今年は日本列島付近で北に蛇行し北海道付近を流れていました。偏西風

が北に偏ると、南から暖かく湿った気流が流れ込みやすくなり暑くなります。

去年の8月は、偏西風が日本列島にかかるくらいを流れていたの、冷たい空気も入ってきていました。

3. エルニーニョ現象とラニーニャ現象

大気の大循環によって、熱帯付近の地表面や海水面近くでは赤道に向かって北東の貿易風が常に吹いています。この風に引きずられて、赤道付近の海流は東から西へと流れます。

赤道付近は日射量が多いため、その海水も温度が高く、この高温な海水は貿易風によって太平洋の西(ニューギニア・インドネシア沖)のほうに集められます。一方、東側のペルー沖では冷たい海水が下から上がってくるので海水温が低くなります。その結果、赤道付近の海水は、西側の方の温度が東側に比べ5℃以上高いといわれています。

温度の高い西側の海水域は、空気に含まれる水蒸気の量も多くなります。水蒸気が多ければ、大規模な積乱雲が発生しやすくなり、そのためニューギニア・インドネシア沖などでは雨が多くなります。

この過程で海水を西に引きずる貿易風が弱くなるとどうなるでしょうか？ 暖水域が太平洋の西側まで運ばれなくなり、ニューギニア・インドネシア沖などの降水量が減ります。代わりに、ペルー沖の海水温が高くなり降水量が増えます。この現象が「エルニーニョ現象」と呼ばれています。「エルニーニョ」とは、スペイン語で「神の息子」の意味です。エルニーニョの始まりがクリスマスの頃であることに由来するそうです。

これと反対に「ラニーニャ現象」というのがあります。貿易風が強くなり、通常よりも高温の海水がニューギニア・インドネシア沖付近に集まり海水温が高くなります。

これにより、ニューギニア・インドネシア沖付近などでは、上昇気流が活発になり、通常よりも降水量が多くなります。「ラニーニャ」とは、スペイン語で「女の子」の意味です。

赤道付近の熱帯地域で温かく湿った空気が上昇し北極方向に循環し、北緯30°付近の中緯度で下降します。この下降気流によってできる亜熱帯高気圧の西端にあたるのが太平洋高気圧で、この高気圧によって日本に夏が訪れます。

エルニーニョになると、高温の海水温が東側に偏ることから太平洋高気圧も東側に傾き、夏の暑さが弱くなります。

ラニーニャになると、高温の海水温が西側になることや西太平洋熱帯域の海水温も高くなることから、対流活動が強化され、北緯30度付近の下降気流が強くなって太平洋高気圧の勢力が強まり暑い夏になると言う傾向があります。

気象庁では、エルニーニョの監視海域を監視しています。観測によると、去年の10月頃にエルニーニョ現象がピークとなり、今年の1～2月からペルー沖の海水温度が下がり始めてエルニーニョ現象が収まってきています。1979年～2008年の統計調査によると、エルニーニョ現

象発生時の夏は、東日本では平均気温が低い傾向にあります。今夏は偏西風の影響でしょうか？ 過去の実績とは異なっているようです。

エルニーニョやラニーニャの他に、「インド洋ダイポールモード」という現象もあります。

普通、インド洋では東部ほど水温が高く、ダイポールモード現象の時には、インド洋東部で海水温が低下し、逆にインド洋中央部から西部で海水温が上昇します。それにより、赤道東部の東風が強化され、さらに東西の海面水温の温度差が強化されます。エルニーニョ監視速報でも、インド洋の海水温度が、冬から基準値より高い値で推移しているようです。ダイポールモードによって、日本は猛暑になるとの研究もあるようです。

最後になりますが台風についてです。今年は今のところ日本列島に近づかず朝鮮半島の方へ行っていますが、これは太平洋高気圧の吹き出しに沿って台風が高気圧の縁を回っていくからで、太平洋高気圧の張り出しが強いため日本列島に近づかない進路を取っています。秋になるとだんだん太平洋高気圧の張り出しが弱くなるので、日本列島に向かってくるようになります。

更に今年は、海水温が高い関係で台風の発生位置が平年に比べ、夏は北に秋は西にずれる傾向があるようで、陸地に近いので台風の発生から消滅までの寿命が短くなり、その為発達する度合いも少ない傾向が想定されているようです。

今年の残暑はまだ厳しいですが、予報によると今月一杯はまだ暑さが続くようですので、是非みなさまお体にお気をつけてお過ごしになっていただけたらと思います。(文責 中沢 治久会員)



第2282回例会

日時⇒ 平成22年9月10日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『障害のある子どもみんなと一緒に
～私達の活動から見える教育最新事情～』

卓話者⇒ 千葉市地域でいきる会
代表 高村 リュウ様

第2283回例会

〈ガバナー公式訪問〉

日時⇒ 平成22年9月17日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『ガバナーご挨拶』

卓話者⇒ 国際ロータリー第2790地区
ガバナー 織田 吉朗様